Voice from the blue sea ★9

“見えないゴミ”の存在

台風後の海で衝撃

文・写真
東 真七水
text & photo by Manami Azuma

「スキューバダイビング×ゴミ拾い＝水中ごみ拾い」を専門としたダイビングショップ、「Dr・blue」でゴミ拾いダイビングインストラクターを務める東真七水です。海底に沈んだゴミを楽しみながら回収し、水中ゴミ拾いをマリンアクティビティとして広める活動をしています。

意外？ 沈むプラスチック

海に流れ出たプラスチックゴミのほとんどが、海底に沈むといわれることをご存知でしょうか。ぷかぷか海面に浮くイメージが強いですが、実際は密度の違いによって浮くもの、沈むものがあります。現在製造されているものの約半数が沈むプラスチックだそうですが、軽いプラスチックであっても、海で漂ううちに表面に付着生物がつくことで重たくなり、最終的には沈みます。そのため、海に流れ出たプラスチックゴミのうち約7割は海底に堆積するそうです。

台風後の海で、一昔前のゴミが大量に見つかる

ある日、一週間前に清掃したばかりのポイントで再び潜ることになりました。ちょうど台風が過ぎたタイミングでしたが、同じルートを使ったにもかかわらず、おびただしい量のゴミが見つかりました。また驚くことに、その約半数が10年以上前に生産されたと思われる空き缶やビンでした。台風には海をかき混ぜる効果がありますが、砂中に全身が埋まっていたり、岩の下敷きになったりしているゴミが、その影響で一気に出現したのではと推測します。ひょっとしたら今はまだ見えていないだけで、何十年も前に破棄されたゴミが、海の奥底には大量に眠っている可能性があります。

ビーチに転がっているたくさんのプラスチックゴミ。しかし実際はそれ以上のゴミが海中に眠っているといわれています。そして、たとえダイバーとして潜り、海底でゴミを見つけても、それすら氷山の一角といえるのかもしれません。

待ったなしの海洋ゴミ問題

このまま何もしなければ、2050年の海は、ゴミの量が魚の量を超えてしまうといわれています。そんな海洋ゴミ問題の主な原因は道端に転がる公共ゴミ。それらは雨風に飛ばされることで最後は海へと流入します。何気ないポイ捨てや落とし物、そして目の前のゴミを見て見ぬふりをして過ごしてきた、一人一人の小さな日々の積み重ねが始まりなのです。だからこそ海洋ゴミ問題は、一人一人がゴミを拾うようになること、そしてできる限りゴミを出さないことが大切です。まずはできることから、そして小さな日々を積み重ねていくことで解決に向かいます。

約40年前に発売されていたと思われるデザインの空き缶。

Profile

奈良県生まれ。大学を卒業後化粧品会社に就職。沖縄の綺麗な海を守りたいと2020年に沖縄に移住し、2022年、水中ごみ拾い専門店Dr.blueを立ち上げる。
【Dr.blue ウェブサイト】
www.dr-blue.okinawa